

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 12日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520484

研究課題名（和文）日本語方言オノマトペの記述モデル構築に関する研究

研究課題名（英文） Study on descriptive model construction of the Japanese dialect onomatopoeia

研究代表者 竹田 晃子 (TAKEDA Kōko)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：60423993

研究成果の概要（和文）：日本語の方言には現代語とは異なる独特の形態・意味用法を備えたオノマトペが数多く存在するが、データベースが存在せず、研究の基盤がないに等しい状態であった。本研究は、これまで研究が進められてこなかった方言オノマトペを対象に、基盤資料としての「日本語方言オノマトペ・データベース」の構築、方言オノマトペの特徴および分布実態の把握、現地調査に基づく記述モデル構築をめざした。

研究成果の概要（英文）：

This research is the creation of: "Japanese dialect onomatopoeia database", the feature of dialect onomatopoeia and the grasp of the distribution actual condition, and the verbal model construction of dialect onomatopoeia which performed the following thing about the onomatopoeia in a Japanese dialect.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言

## 1. 研究開始当初の背景

日本語は諸言語の中でも特にオノマトペ（擬態語・擬声語）が豊富であることが指摘される言語である。オノマトペは感覚的で主観的な言語表現であるという性格上、話しことばに多く用いられ、殊に方言には、現代語とは異なる独特の形態・意味用法を備えたものが数多く存在するが、方言オノマトペにおいてはデータベースが存在せず、研究の基盤がないに等しい状態であった。

## 2. 研究の目的

これまで研究が進められてこなかった方言オノマトペを対象に、基盤資料としての「日本語方言オノマトペ・データベース」を作成し、方言オノマトペの特徴および分布実態を把握し、記述モデルを構築することを目的とする。諸方言の語形と意味用法を把握できる「日本語方言オノマトペ・データベース」と、記述的研究のための調査票を作成し、今後の

方言オノマトペの研究を促進することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は、次の方法で行った。

(1) 方言オノマトペ・データベースの構築  
(2010(平成22)年度～2011(平成23)年度)  
データベース作成のために、各地方言集・方言辞典の見出し語からオノマトペとその類を抽出した。

(2) 方言オノマトペの実地調査と記述研究  
(2011(平成23)年度)

数地点を選定し、実際の調査を行った。平行して、データベースの項目追加とタグ付けを行った。この一部を利用して『東北方言オノマトペ用例集』を作成した。

(3) 方言オノマトペの記述モデルの構築  
(2012(平成24)年度)

調査結果に基づいて、データベースの項目とタグを追加し、調査に必要な情報をとりまとめた。

### 4. 研究成果

(1) データベースを利用し、方言辞典・方言集などのすべての項目の中からオノマトペとそれに関わる形式を取り出し、それらのデータを分析する試みを行った。一方言の中でオノマトペが占める語彙的特徴を明らかにした(盛岡市方言)。

(2) 一地点・一地域における記述研究(岩手県盛岡市、群馬県西部方言、鹿児島県喜界町城久)、一地域における地理的・年代的な違いを明らかにするグロットグラム調査(山形県陸羽東線沿線22地点)、感動詞との比較等(宮城県・岩手県三陸地方)、鳴き声の全国分布の分析(牛の鳴き声)を行い、方言のオノマトペがどのように用いられているかを明らかにした。

(3) 方言オノマトペ・データベースの試作を通じ、データベースをどのように利用できるかを検討した。中でも、オノマトペには身体感覚を表す形式が多いことから、データベースを利用して、医療現場向けの方言手引きとして『東北方言オノマトペ用例集』を作成した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

①竹田晃子、『日本言語地図』にみる牛の鳴き声のオノマトペ、熊谷康雄編『大規模方言データの多角的分析・成果報告書—言語地図と方言談話資料—』、査読無、2013年、69-80

②小林隆・熊谷康雄、共通語形の分布と伝播について、熊谷康雄編『大規模方言データの多角的分析・成果報告書—言語地図と方言談話資料—』、査読無、2013年、129-155

③竹田晃子、三井はるみ、「全国方言文法の対比的研究」調査の概要とそのデータ分析—原因・理由表現—、国立国語研究所論集4、査読有、2012年、77-108

④小林隆・田中宣廣・櫛引祐希子・竹田晃子、つなぐ言葉としての方言—被災者・支援者・そして研究者—(ワークショップ報告)、『社会言語科学』14-2、2013年、161-168

⑤竹田晃子、医療現場における方言理解のために—支援者と被災地をつなぐ—、HUMAN3、査読無、74-82

⑥竹田晃子、被災地域の方言とコミュニケーション、日本語学、査読無、31-6、2012、42-53

⑦小林隆、感動詞「猫の呼び声」、宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究、査読無、2012、162-172

⑧小林隆・澤村美幸、驚きの感動詞「バ」、宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究、査読無、2012、165-188

⑨竹田晃子、鹿児島県喜界島方言におけるオノマトペの語彙的特徴、消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究—喜界島方言調査報告書—(国立国語研究所共同研究報告11-01)、査読無、2012、139-162

⑩小林隆、オノマトペの地域差と歴史—「大声で泣く様子」について—、方言の発見—知られざる地域差を知る—、2010、21-47

⑪小林隆、日本における方言調査・記録の現状—「消えゆく日本語方言の記録調査」の取り組み—、新国語生活20-3、査読有、2010、48-60

⑫小林隆、日本語方言の形成過程と方言接触、日本語学29-14、査読無、2010、34-44

⑬竹田晃子、言語地図データベースの概要、方言の形成過程解明のための全国方言調査「事前研究」報告書、査読無、2011、275-282

〔学会発表〕（計 7 件）

①竹田晃子、『日本語地図』にみる牛の鳴き声のオノマトペ，大規模方言データの多角的分析研究発表会，2012 年，全国町村会館ホール B

②小林隆・熊谷康雄，共通語形の分布と伝播について，大規模方言データの多角的分析研究発表会，2012 年，全国町村会館ホール B

③竹田晃子，復興と語り継ぎが育む減災文化：災害時のコミュニケーション－東北方言オノマトペ用例集－，第 23 回群馬学連続シンポジウム：天明三年浅間焼け－復興と語り継ぎが育む減災文化－，2012 年，女子大学講堂

④小林隆・田中宣廣・榎引祐希子・竹田晃子，つなぐ言葉としての方言－被災者・支援者・そして研究者－，『社会言語科学会第 30 回大会発表論文集』，2012 年，東北大学

⑤竹田晃子，円滑な医療コミュニケーションのための方言集－『東北方言オノマトペ用例集』の取り組み－，第 94 回 日本方言研究会研究発表会，2012 年，千葉大学

⑥竹田晃子，言語地図データベースの特徴と利用方法，国立国語研究所 共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究発表会，2011 年，国語研究所

⑦竹田晃子，岩手県盛岡市方言におけるオノマトペの語彙的特徴，平成 23 年度 群馬県立女子大学国語国文学会大会，2011 年，群馬県立女子大学新館 1F 第 1 講義室

〔図書〕（計 3 件）

①小林隆・篠崎晃一編，方言の発見－知られざる地域差を知る－，ひつじ書房，2010 年，207 頁

②竹田晃子，東北方言オノマトペ用例集，国立国語研究所，2012 年，204 頁

③東北大学方言研究センター，方言を救う，方言で救う－3.11 被災地からの提言ひつじ書房，2012 年，240 頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ninjal.ac.jp/pages/onomatopia.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

竹田 晃子 (TAKEDA Kōko)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：60423993

### (2) 研究分担者

三井 はるみ (MITSUI Harumi)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・構造研究系・助教

研究者番号：50219672

小林 隆 (KOBAYASHI Takashi)

東北大学大学院・文学研究科・教授  
研究者番号：00161993

### (3) 連携研究者

なし